

3 月号
VOL. 483

土會奈良

593



上：民宿の客室。極めて質素
中：オスマントルコ時代の砦集落。煙出しが可愛い
下：民宿の支援した典型的な農家

SHIKAI

2015 NARA

表紙のことば

ボスニア・ヘルツェゴビナの民家



トルコ風の伝統的住宅の内部

ボスニア・ヘルツェゴビナは、かつてのユーゴスラビア連邦の6つの共和国の一つ。1992年からすざましい内戦があり、1995年アメリカのデイトン合意で独立が確定した。そのボスニア・ヘルツェゴビナで、イスラム教徒のボスニア系住民の村と正教徒のセルビア系住民の村のある地域を一つのゾーンにして観光を振興するというのが私たちのプロジェクト。観光は「平和の産業」と言われる。かつて殺し合った民族が手を取り合って観光に従事することによって平和が保たれないか。次に戦争がおこると観光客が来なくなり収入がなくなるということが戦争抑止力にならないかという、試みである。農村の住宅はかなり大きいので、空き部屋を活用して農家民宿グループを運営、そこに宿泊する客に山歩き、自然観察、グルメ、遺跡巡り、ボート遊びを楽しんでもらう、というプログラムで観光開発を行った。

この国はかつてオスマン帝国の支配地域であり、ヨーロッパでありながら今もイスラム教徒が多い。モスクに限らず住宅や家具にはその伝統が色濃く見られる。ヨーロッパ式の建物に比べてトルコ式の建物は木材をたくさん使い、家具にも細かい模様が彫り込まれたりしている。伝統的な家屋に宿泊し、地産地消の食べ物を楽しむ。パン、肉、牛ハム、野菜、ミルク、バター、チーズ、焼酎。すべてが自家製。田舎農家ではお店で売っている食べ物はおいしくないし、体にも良くないと言う人も多い。食後にラキアという焼酎を飲みながら家族と歓談。部屋の隅ではおばあちゃんが孫と自宅で刈り取った羊毛で糸紡ぎをしている。ストーブの薪がパチパチはぜていい気持。ひょっとしたら自分は前世この村に住んでいたのかも知れないなあ、とすら思ってしまう。

(記・阪本日出雄 国際開発コンサルタント (株)パデコ)

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治	
副委員長	田上 圭吾	折目 貴司
委員	乾井 哲	岩城由里子
	鵜山 治	大倉 克之
	小松原寛俊	崎山 泰正
	福西 保夫	福本 保治
	藤井 靖彦	宮浦 重彦

Contents

002 森林技術センター
第7回「木が木でなくなる話
「木材の耐朽・耐蟻性」」

004
「平成27年 新年名刺交換会レポート」

006 桜井支部
「竹中大工道具館・北野異人館」

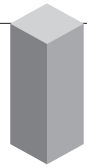
007
「新近畿建築祭レポート」

010 青年委員会
「三重県・奈良県合同見学会」

011 青年委員会
「平成26年度一級・二級・木造建築士
試験合格者見学会及び祝賀会レポート」

012
「高校生の建築甲子園」

013 お知らせ
「平成26年度 一級・二級・木造建築
士試験合格者」他



木が木でなくなる話

第7回「木材の耐朽・耐蟻性」〔最終回〕

1. はじめに

「木が木でなくなる話」というテーマで6話に渡って連載をさせていただきました。かなりマニアックな話ばかりで、後から読み直しますと、もう少し木材の基本的なことをお伝えすべきであったと反省を致しました。そこで、最終回の今回は木材自体の耐朽性や耐蟻性（併せて生物劣化抵抗性と言います）など、木材を屋外で使うに当たっては是非知っておいていただきたい事柄についてお話しします。

なぜ、生物劣化抵抗性を取り上げたかと言いますと、私の専門分野であることの他に、木材が受ける生物劣化を設計段階で考慮しなかったことが原因で、大変深刻な事故が何例も発生しているということを読者の皆さまにお伝えしたかったからです。

図1は愛媛県内の公園に設置された橋が竣工後10年足らずで落ちたときの写真です。生物劣化抵抗性に優れるとされるボンゴシというアフリカ材を用いて作った橋で、設計段階では50年は使えるとされていました。千葉県内のボンゴシ製の木製歩道橋や、長野県内の集成材を用いた大型木造建築物などが竣工後15年以内に朽ち壊された事例では、その責任の所在をめぐって訴訟にまで発展しています。この他にも、設計段階等での配慮が足りなかったために、極めて短期間のうちに橋を架け替えた、施設が閉鎖に追い込まれた事例を著者はたくさん知っています。



図1 落下したボンゴシ橋（森林総合研究所HPより）

2. 木材が腐るということ

ところで木材はどうして腐るのでしょうか。それには木材腐朽菌という菌類が関与しています。木材腐朽菌はキノコを作る菌の一種で、シイタケやエノキダケなども木材腐朽菌なのです。そしてそれらは大概どこにでもあります。空中を舞っている孢子が木材に付着した際、生育の条件が整うと、セルロースなどの木材の骨格を形成する成分を分解しつつ、生長して（菌糸を伸ばして）、やがては子実体（キノコ）を形成し、そこで孢子を作るというのが木材腐朽菌のライフサイクルです。木材腐朽菌が生長するためには、適当な温度、酸素と水が必要で、3つのうち1つでも欠けると、木材腐朽菌は生長できない、換言しますと腐朽被害は発生しません。この3つのうち、橋や建築物にあって制御できるのは「水」だけです。結論を言いますと、木造の

建築物等を腐朽被害から守るために、最も重要なことは「構造の主要部分に雨水などの水の滞留を許さない」設計をすることです。それに加えて点検マニュアルを作成した上で、それに従った点検とメンテナンスをすることが必須ということです。長野県の事例では滞留した水は、結露水であったと推察されますし、県内の温泉施設でも結露水により梁が腐朽した事例もありますので、十分な換気設備を設けるなど、結露についても十分な配慮が必要です。

3. 耐朽性について

木材の耐朽性を評価する方法はJIS Z2101に定められています。オオウズラタケ、カワラタケという木材腐朽菌を供試菌として、図2の左の写真にあるような広口ビン内でそれらを培養した後、試験材（2cm立方）を入れ、腐朽菌が好む温湿度条件で60日間静置した後、試験前後の試験材の重量（60℃での恒量）から、重量減少率を求めます。耐朽性が低いと重量減少率が大きくなります。この室内ビン試験の他、杭状の試験材を野外の試験地に埋設して、生物的な劣化を目視で6段階評価する試験もあります（図2右）。

図3は室内ビン試験の結果を示します。国産材のヒバ、ヒノキ、カラマツや北米産のベイヒバ心材は重量減少率が小さく、一方、ベイツガやベイモミ心材、それにスギやブナの辺材は重量減少率が大きくなっています。スギとベイマツの心材はその中間にあります。この室内ビン試験の結果



図2 素材の耐朽性評価試験（左）室内ビン試験、（右）野外杭試験

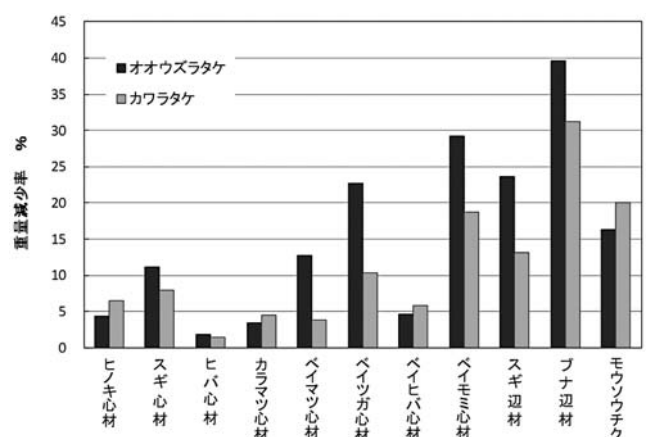
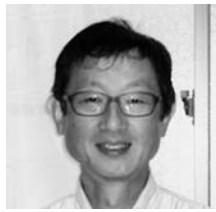


図3 室内ビン試験の結果



略 歴 伊藤貴文 (いとう たかふみ) 奈良県森林技術センター副所長

1956年京都市生まれ。1982年3月京都大学大学院農学研究科林産工学専攻修士課程修了。1983年4月奈良県林業試験場(現森林技術センター)勤務。1997年7月、京都大学より農学博士の学位授与。2013年より現職。専門分野は「木材の化学加工」、「木質バイオマスの利用」

賞 罰

- ・スギ樹皮を原料とする和紙製造技術によって、1994年5月、日本林業技術協会より第40回林業技術賞授与。
- ・水溶性薬剤による木材の化学修飾に関する研究(寸法安定化・高耐久化)によって、2002年1月、日本木材学会より第3回技術賞、同年4月、文部科学大臣賞(第22回科学技術振興功績者)
- ・吸湿性を抑えた不燃化技術によって、2010年5月日本木材加工技術協会より第55回加工技術賞授与。

果と野外杭試験の結果とは、ある程度の相関が見られ、野外試験での耐朽性区分で「大」にはヒバ、ヒノキとベイツバ心材、「中」にはスギ、ベイツバとカラマツの心材、「小」にはベイツガ、「極小」にはベイツミ心材と、スギやブナの辺材がそれぞれ分類されています。腐朽被害が考えられる場所には耐朽性やこの後お話しをする耐蟻性が高い樹種の心材を使うというのは必須ですが、先のボンゴシ橋の例もあるように過信は禁物です。

4. 耐蟻性

図4はスギの辺材と複数の針葉樹の心材を、イエシロアリが生息する和歌山県内の試験地に約3か月間埋設したときの試験材の外観です。ヒノキとスギの心材が最も被害が小さく、一方、スプルース、ベイツガ、ベイツミ心材は内部まで甚大な被害を受けました。スギの辺材は心材に比べて被害が大きくなりました。ただし、これは3か月間という短い期間での結果であって、スギやヒノキの心材が長期に渡って被害を受けないということではありません。

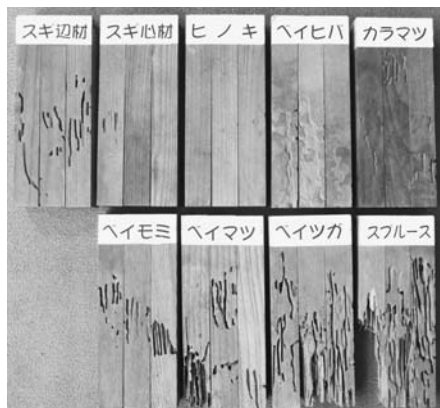


図4 主な針葉樹材の食害状況

5. 木材防腐対策

野外など腐朽被害が想定されるような用途には、木材保存剤を加減圧注入した木材を使うことが一般的です。JISや日本木材保存協会が認定している薬剤はいずれも高い性能を持っていますが、当然ながら木材中にきっちりとしみ込まなければ、薬剤の効果は発揮されません。

ところで、注入性には樹種や部位(心材と辺材、第2話参照)によって大きな差があります。図5は3cm角の試験材に水溶性の薬剤を加減圧注入したときの注入率です。注入率とは、計算で求めた理論上の最大注入量に対する実際の注入量の百分率です。一般に辺材はどのような樹種でも注入性は良いとされています。心材でもヒノキは注入性が良く、次いでスギ、ベイツガが良好な注入性を示しています。それに対して、スプルースなど4樹種の注入率は40%以下と低い値になっています。

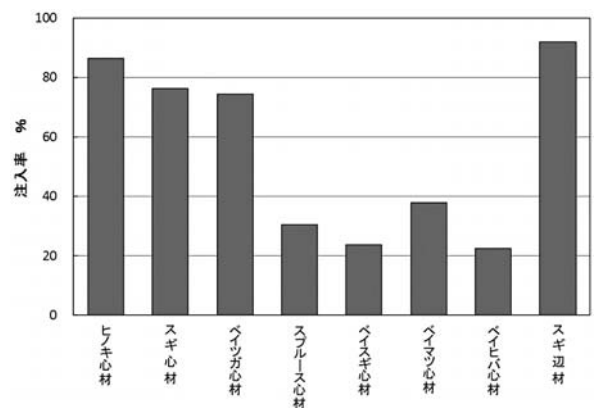


図5 主な針葉樹材の注入性

6. 注入不良が起こした不具合

図6はベイツバで作られた橋の欄干です。竣工後5年くらいで、内部が著しく腐朽しました。ベイツバは注入性が悪く、表面のごく浅い部分にしか木材保存剤が浸透せず、ひび割れた表面から雨水が内部にしみ込み、短期間で腐朽が進行しました。また、ベイツバは耐蟻性が小さく、甚大なシロアリ被害を受けた木橋も、著者は度々目にしています。初期の強度性能が優れていることと、大きな断面の材料が比較的安価で入手できたことで、木橋などの屋外工作物がベイツバで作られた時期がありました。多分その過半が、想定していた耐用年数以下で、寿命を迎えたのではないのでしょうか。注入性が良いスギやヒノキを用いて、しっかり木材保存剤を注入しておけばと悔やまれます。



図6 木材保存剤が未注入の内部に生じた腐朽

7. おわりに

これまで7話に渡って連載をさせていただきました。ご愛読いただきました皆様には心より御礼申し上げます。私の専門とする化学加工や木材保存に関する情報をかなり詳しくお伝えすることができたかと思います。しかし一方で、乾燥、強度、接着など、木材加工の主たる部分については、全く触れませんでした。そこで、次回からは当センター木材利用課の研究員が持ち回りで、私がお伝えできなかったこれらの分野について、情報発信をさせていただくことになりました。続けてのご愛読をお願い致します。



平成27年新年名刺交換会及び 第16回奈良県景観調和デザイン賞表彰式

平成27年新年名刺交換会及び第16回奈良県景観調和デザイン賞表彰式が新春14日奈良ホテルで開催された。

水本雅章奈良県まちづくり推進局次長、東井素生奈良市都市整備部長、杉分章良橿原市まちづくり部副部長、山下真生駒市長を始め、県及び県下特定行政庁の関係の皆様方（一社）奈良県建築士事務所協会、（一財）なら建築住宅センターなど建築関係諸団体代表の方々、デザイン賞表彰の関係者にもご出席を賜りました。参与会を始め士会会員と合わせ110人の出席により盛大に催されました。



初めに洲上徳光会長より、主催者を代表して挨拶があり世界の環境は激しく変化しており、予断を許さない状況である。国内も自然災害の脅威にさらされ、様々な難問が山積している中、こうして新しい年を迎えることに、感謝する気持ちを大切にしたいと話された。次に、建築士会連合会主催の「建築甲子園」に応募した、奈良朱雀高校生の作品が見事全国4位に輝き大変喜ばしいこととの報告がありました。

景観デザイン賞の事業は、建築と社会、自然と環境とが地域の人々に愛される風景を造るとして積極的に進めると強調されました。

第1部 第16回奈良県景観調和デザイン賞表彰式

吉田泰造デザイン賞部会長の司会により

1. 知事賞 今井町の家：七尾司県景観環境局次長より
施主、設計者、施工者に表彰状授与



2. 会長賞 終の住処—奈良帝塚山の家：洲上会長より
施主、設計者、施工者に表彰状授与



3. 奨励賞 斑鳩の家：会長より同三者に表彰状授与
4. 奨励賞 十津川村復興公営住宅：同上
5. 審査委員長賞 御所の古民家：吉村審査委員長より
同三者に表彰状授与

・吉村篤一審査委員長の審査講評



この賞は、第16回ということで30年に渡り選んできた建物により奈良の景観が良くなることに貢献してきた。景観調和デザイン賞の審査の基準の、必要条件としてその建物自体の美しさ、デザインの良さが求められる。さらに充分条件として、地域の中での関連性、秩序を乱さないのが調和であります。さらに、公共建築と住まいは、図と地の関連にあります。

今回公共建築の入賞が無かったのが残念ではありましたがそのかわり地模様である個人住宅に良いものがあったということです。次回の公共建築に期待して講評とします。

第2部 名刺交換会

紀本澄男副会長の司会により進行

・奈良県 荒井正吾知事祝辞（水本次長代読）



県では暮らしやすい奈良を作る、このことを県政の目指すべき目標として取り組んでいます。その一つとして災害に対する備え、被害を最小限に抑え、県民の安全安心の確保のため、住宅や建築物の耐震化が必要であり建築士の皆様の協力をお願いしたい。次に美しく風格のある景観の創造を目標とし魅力あるまち作り「なら四季彩の庭」づくりを進めています。建築物や植栽は、景観形成に重要な要素で、景観調和デザイン賞の取り組みに大いに期待しますと祝辞を頂いた。

・生駒市 山下真市長祝辞



本市の昭和40、50年代の建築物の耐震診断、補強工事に建築士の皆さんのお世話になっておりお礼申しあげます。吉村審査委員長の公共建築物が少なかったとの問題提起に対し、コスト重視の競争入札に問題があるのかと思います。生駒市では、デザインコンペ、プロポーザル等の方式を一部実施していることが問題提起の答とは思いますがネットは時間を要する、行政の限られたコストもあり全てに広げるのは難しく、持ち帰りさらなる検討したい。

人口減少している奈良県ですが、生駒市をはじめ大阪に近い地域では人口が増えている。大阪に近くて、緑豊かで

歴史の香りのするエリアでは住宅地としてのポテンシャルはあります。駅に近いところで新しい市街化区域を増せば関西圏の住宅都市として勝負できる潜在力があります。一方古いニュータウンの中古住宅市場は未整備であります。当市は今、国庫補助金を得て検査、リフォームに取り組んでいる。このモデル事業でのノウハウを蓄積し発信したい都市計画、建築、景観と建築士の皆様の力添えが必要ですよとの祝辞を頂いた。

・司会者より、来賓紹介

・植村吉延(一社)奈良県建築士事務所協会長による乾杯

その後華やかな祝宴に移り、初めての方、旧知の間と年賀挨拶、名刺交換と親交を深め、和気藹々と祝宴は進んだ。

平成27年新年名刺交換

第16回 奈良県景観調和デザイン賞表彰式・懇親会
主催：(一社)奈良県建築士会 後援：奈良県・奈良県市長会・奈良県



井上副会長より中締め、ガンバローコールがあり終宴した。

平成27年新年名刺交換会

第16回 奈良県景観調和デザイン賞表彰式・懇親会
主催：(一社)奈良県建築士会 後援：奈良県・奈良県市長会・奈良県町村会



(記・井上慶治)

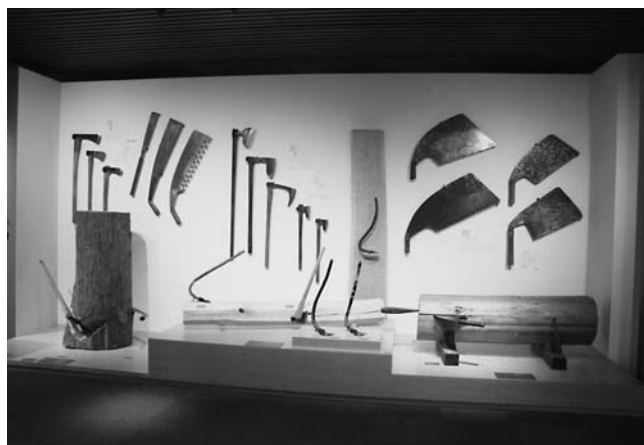


桜井支部

竹中大工道具館・北野異人館

晩秋の12月6日桜井支部では、神戸竹中大工道具館と北野異人館街への研修会を行いました。総勢20名、桜井出発時は天候がぐずつき心配しましたが、神戸に着く頃には素晴らしい晴天となりました。

竹中大工道具館は、竹中工務店創立85年を記念して1984年7月に開館した大工道具の博物館です。2014年に開館30周年を迎え、新神戸駅前にリニューアルオープンしました。当日は展示順路に従って、博物館の担当館員のレクチャーを受けながらの見学です。大工道具の歴史から、棟梁の仕事、大工道具の仕組みや使い方、中国やヨーロッパの道具の使い方と日本の使い方の違い。茶室の中に入り「和」の伝統美、鍛冶職が心を込めて造った素晴らしい道具。「木」の特徴やクセを上手に使う智恵。大工道具は、品質のよいものほど摩耗するまで使われ、消滅するという厳しい宿命。戦後の高度成長を経て機械製材と電動工具が広まり、今日ではテクノロジーの発達とともに、手道具を使う職人は急激に少なくなってきましたが、消えてゆく大工道具を民族遺産として収集・保存し、さらに研究・展示を通じて後世に伝えていくことをコンセプトとした日本で唯一の大工道具の博物館が「竹中大工道具館」でした。古い時代の優れた道具を保存することはさることながら、「道具」を使いこなす「人」の技と知恵や心、そこから生まれる「建築」とそれを取り巻く木の文化についての理解が出来るような展示がなされていました。



又、我々が訪れた日は、日中韓「棟梁の技と心」特別展が開催されており、日中韓の各国を代表する三人の棟梁、紫禁城、景福宮、薬師寺という東アジアを代表する建築ゆかりの最高峰の職人を紹介：中国の棟梁「李永革」の故宮に受け継がれる宮殿建築の技・韓国の棟梁「申鷹秀」韓国宮殿美を蘇らす・日本の棟梁「小川三夫」法隆寺の西岡常一の唯一の弟子の古代工匠の技と心を伝える。三カ国の棟梁の技と心が交流する場が創出されていました。

昼食を三宮のレストランで頂き、午後はNPO法人KOB E観光ガイドボランティア様の案内で神戸北野異人館街の散策です。北野町に異人館街が誕生した理由は、開港後の来日外国人の増加による居留地の用地不足と、諸外国との条約上、居留地を広げることは治外法権区域の拡大を意味するため、明治政府は、範囲を限って日本人との雑居を認め、居留地から山手に延びる南北道の整備を行いました。その一つが北野村で、居留地に近く、港が南に一望できる環境のよい山手で、高台に外国人住宅である異人館が集まり、居留地の仕事場に山手から通勤するライフスタイルも定着しました。明治時代から昭和初期にかけて二百余棟建てられ、建築については、形はほぼ「コロニアルスタイル」と呼ばれる様式に集中し、神戸の異人館では、ベランダ、下見板張りペンキ塗りの外壁、ベイウィンドウ（張り出し窓）、よろい戸、赤レンガ化粧積み煙突などが特徴となっています。



研修コースは①萌葱（もえぎ）の館（映画：「少年H・原作 妹尾カッパ」のロケ舞台ともなった）から②風見鶏の館（1977からの「NHKドラマ風見鶏」で明治時代に国際結婚したパン職人）で異人街が脚光を浴びたきっかけとなる館・③ラインの館と内部も見学し、その後異人館街を散策しながらバスへと戻り、定刻午後3時半新神戸駅を出発し桜井には午後6時前帰着し解散となりました。



（記 桜井支部 松尾憲治）



第34回近畿建築祭兵庫大会レポート

会場は神戸市産業振興センター 3 F 他で行われました。今年は1995年1月17日の阪神・淡路大震災から20年に当たります。オープニング前に不幸にも震災で亡くなられた方々に鎮魂の黙祷が捧げられた後、今大会実行委員長の三宅様より開会が宣言されました。



はじめに開催地会長・兵庫建築士会 高橋伸明様の挨拶。20年前、わずか数十秒の地震動により見なれた街が一瞬に崩壊し、復旧・復興に当たって近隣・全国の建築士会でご支援に感謝のお言葉がありました。今回のテーマを「1・17からの20年をふりかえって」とし、基調講演にわが国の総合防災研究の第一人者の室崎益輝に御願ひしていること。午後からは同時並行的に5つのセッションを開催し、セッション2は神戸市「北野・山本地区」をガイドと共に街歩きをし、それ以外は開催会場内で開催すること。セッション5は「近畿あーきてくと 2015」で、様々な災害に備えて『地域のそなえ』のテーマで地域活動の発表。セッション4では「兵庫建築士会 過去ー現在ー未来」をテーマにパネルを展示と共に建築界協賛頂いているメーカーの展示ブースも設けている事を含めたご挨拶。

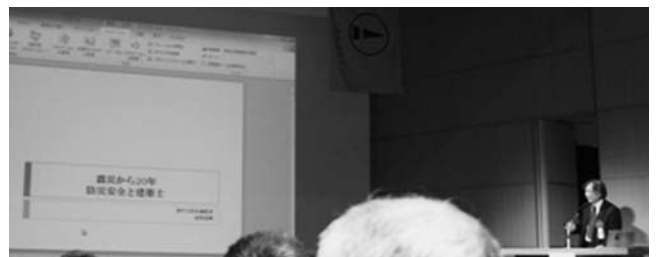
次に近畿建築士協議会代表・大阪府建築士会会長 岡本森廣様の挨拶。今年は、近畿建築士協議会の設立63年を迎えました。また、近畿建築祭は昭和50年4月19日の第1回に始まり、伝統性・継続性を有して、今回34回目40周年の記念すべき大会となりました。加えて阪神淡路大震災から20周年、国際的には第3回国連防災世界会議開催や終戦後70年、韓国国交回復50年と、数々の節目の年に当たります。第2回国連防災世界会議は神戸で開催され、2005年～2015年まで兵庫行動枠組が実行され効果を上げてきた意義のあるものでした。かつて建築士協議会は近畿圏の会員の交流・コミュニケーションの場でしたが、平成15年に見直し

され、これまでの行動を総括し、近畿の各建築士会の共通課題となる会員減少・財政逼迫・さらなる社会貢献等を踏まえ、合理的で効果的な新たな「近畿建築祭」への展開へと舵を切った年でもあります。「近畿は一つ」との合い言葉のもとで、①近畿圏を巡り担当単位会が主導して、近建青・近建女と協働する。②近畿圏の家族を含めた会員交流の場であり、一般市民も含めたコミュニケーションツールとする。③近畿各府県の伝統文化・風土・習慣文化優れた景勝地や観光地を巡って知見を得る。等々が人的ネットワークを形成し貴重な財産となっていることは意義が大きい。また今回は5つのセッションの部会があること、来年度の和歌山大会は開山1200年の高野山で開催されると予定され、近畿建築祭の絆を強く結んで参りたいと締めくくりました。

次に来賓として列席されている各府県建築士会会長様のご紹介がありました。

基調講演は室崎益輝様（兵庫県立大学防災教育センター長・神戸大学名誉教授）テーマ「震災から20年ー防災安全と建築士」

室崎先生のプロフィールは、わが国の総合防災研究の第一人者で、震災復興は言に及ばず、火災・水害・防犯・危険物など生活空間における様々なリスクを対象に、優れた研究成果を残されています。その一方で、幅広い防災研究を通じて培われた独自の安全哲学の視点から、講演、著述など、市民の安全形成に関わる社会教育にも精力的な活動を続けられております。我が奈良建築士会の会報誌「士会奈良」の2011年11月号から2012年4月号まで6回の「安全な空間を作る」のテーマで連載を寄稿して頂きました。機会があれば読み返していただければ、広報担当者としても至福です。



今回の基調講演では建築士がこの大震災での関わりを検証しました。●災害と再生の課題：「残酷な喪失」を生んだ原因を解明し、再発防止の取組を進める。●建築士が問われた責任：凄惨な被災を生んだもっとも大きな原因は、建築が無残に壊れ、燃え上がったこと……それに関わった建築士の責任が問われる。●直接被害の原因と建築士：震災

死に直接と関連死があり、何れにも建築関係の専門家関わっている。●復興に遅れの原因と建築士：住宅等の再建に対する創造的提案の不足 行政指導者、研究者、設計者、プランナー、工業社、被害者のそれぞれが「結果責任」を負担すべき。●未来の建物や街を作る責任と建築士：地球環境、高齢化、人口減少、低成長時代、……相応しい建物や街を提案する。立て直しだけではなく世直しも必要。大震災では大きく世の中が変わる事を認識し建築士と活躍を期待していると結ばれました。

昼食後「午後の部」セッション1～5 発表会・閉会式
各セッションのご案内

- ・セッション1：防災でひろがる建築士会の活動（防災委員会）
- ・セッション2：北野・山本地区の景観まちづくりを学ぶ（女性・まちづくり委員会）
- ・セッション3：歴史的建造物調査平時のネットワーク構築を考える。（ヘリテイジ委員会）
- ・セッション4：過去－現在－未来へ
- ・セッション5：近畿あーきてくと2015－地域のそなえ－（近建青委員会）



奈良建築士会はセッション2／3／5に参加しました。最後に次回開催の和歌山県建築士会への大会旗の引き継ぎが行われ、次期開催地・和歌山建築士会会長 池内茂雄様のご挨拶、平成27年の秋に第35回近畿建築祭「和歌山大会」は高野山で開催されます。高野山は開山されて1200年めを迎え、会場は高野山大学の松下行動・黎明館をメイン会場に予定しているとの挨拶。

厳粛の中にも爽やかに式典は終了しました。

（記・桜井支部 松尾憲治）

セッション2「北野・山本地区の景観まちづくりを学ぶ （ガイドと共に歩く街歩き）」

セッション2は、兵庫県建築士会女性・まちづくり委員会が担当の、神戸異人館が点在する北野地区に住み・働く人たちがどのようにまちづくりに取り組んでいるのかを、景観まちづくり実践講座に参加して学ぶというものでした。

景観まちづくり実践講座というのは、兵庫県建築士会が、いきいき下町推進協議会と地域まちづくり団体とともに2011年から実施している「景観まちづくり推進員養成講座」のプログラムの一つで、景観まちづくりの「担い手」の育成を目的に、建築士、地元まちづくり団体構成員、大学院生を対象にして、景観まちづくり講座（座学）4回12講義と景観まちづくり実践講座（現地）5回10講座を受講します。2011年の第1期は有馬地区、2012年の第2期は岡本地区、2013年の第3期は新開地地区、そして2014年の第4期は北野・山本地区で実施されました。

セッションは、第1部北野・山本地区の見学から始まりました。この地区は1979年に景観計画地区・伝統的建造物群保存地区に指定されているので、もちろん厳しい景観形



成基準がありますが、地区の特色として、異人館に代表される洋風建築物と明治からの和風建築物が、安藤忠雄さん設計のROSE GARDENに代表される近年の建築物の間にばらばらと混在しており、一見、統一感がありません。そんな中で、景観まちづくりをどう守り育てるのかについて、第2部景観まちづくり交流会が、北野工場のまち3階の講堂において、受講生による成果発表・パネルディスカッションの形で行われました。1組は、地区にあった国営オリーブ園からシンボルツリーをオリーブとする緑のまちづくりについて。



2組は、商業施設の看板・サインのあり方について。3組は新しい建築のデザインのあり方について。それぞれルールの方（つくるときと維持管理）が発表されました。

北野・岡本地区は、狭い範囲に仏教寺院、キリスト教会、イスラムモスク、ジャイナ教寺院が建つ多国籍地域のため、時々でまちづくりコンセプトが変わらないこと、価値観を共有しての人づくり、時間の経過と共に良くなるまちづくりをめざすことが重要であると締めくくり、終了しました。

（記・女性委員会 本保万貴子）

セッション3『歴史的建造物調査

平時のネットワーク構築を考える』

大規模災害によって一度に多くの歴史的建物が被災した場合、専門家がそのネットワークを通じて、迅速かつ効率的に被災状況の調査や復旧保全を担うことが不可欠であり、そのためには平時より協力体制を構築しておくことが必要となる。そこで、まず近畿圏での協力体制について考える。

①「被災歴史的建造物の調査・復旧方法対応マニュアル」について解説

マニュアル作成の目的：阪神淡路大震災以降、各地で大規模災害が発生するたびに、歴史的建造物の被害が相次いでいる。その多くは、取り壊されており、結果、地域の歴史的景観が失われている。そうした事態を防ぐ事を目的に（公社）日本建築士会連合会が作成。

マニュアルは、緊急時、事後、復旧の3部構成で対応方法を解説。災害が発生する前に歴史的建造物の情報をリストにまとめる重要性を指摘した上で、地震が発生した場合は、震度などから地震の被害状況を推測。行政や修理技術者などが調査に当たるように求めている。

②「歴史的建造物デジタルマップ」による模擬調査の報告

神戸地区では、平成25年度から市内の歴史的建造物をグーグルマップにプロットする作業に取り組み、マップ活用により災害時調査の効率・制度UPになると考え、模擬調査を行った成果を報告された。模擬調査後、参加者からの意見を踏まえ、マップ内容の定期的な更新作業を兼ねて定期的に調査演習実施を検討したいと報告。

③パネルディスカッション「近畿圏における被災歴史的建造物調査の協力体制構築」について

a. ヘリテージマネージャー養成状況・活動状況が各府県より報告

b. 過去の災害履歴や災害発生リスクにかんする情報が数県から報告

c. 各県の相互協力体制構築について、意見交換

まとめでは、コーディネーターより本セッションを第1回とし今後も意見交換の会議を継続的に開催してはどうかとの提案があり、最後に近畿の情報共有化・ネットワーク化を皆で進めて行くことを確認し、拍手をもって本セッションは終了しました。

今後も、様々な講習会等に積極的に参加し知識を深め、そして懸念されている大規模災害時には歴史的建造物の保全・活用に関わる専門家の一人として少しでも役に立てたら幸いです。

（記・奈良支部 小林泰浩）

セッション5「近畿あーきてくと2015」

1月31日 神戸市産業振興センターにて近畿建築祭が行われました。午後からセッションの一つに近畿あーきてくとが組み込まれました。

今年の近畿あーきてくとのテーマは「阪神・淡路大震災」から20年の節目であることから今後起こりうる様々な災害に備えた「地域のそなえ」をテーマに各府県で実施している活動発表でした。

兵庫県、和歌山県、京都府、滋賀県、奈良県、大阪府に加え学生の発表もあり大変有意義な一日となりました。

奈良県からは十津川村役場 建設課 主幹 乾氏がH23に起きた紀伊半島大水害後の復興住宅「心身再生の郷（新しい集落づくり）」について発表がありました。ただ被災地の道路整備や建物整備ではなく「新しい集落をつくり若者から高齢者までが働きたい住みたいと思える安全な新しい集落を創る」ことを目指して計画されたこと、また今後も引き続き「元気な拠点づくりプロジェクト」等地域に根差した整備を進めると熱く語っておられました。

その他の発表も防災への地域を挙げた取り組みが多かったと思います。

学生発表の一つに「木造耐力壁ジャパンカップへの挑戦」をいうのがありました。発表を聞くまでそんな大会があることすら知りませんでした。第17回大会ということなのでかなり以前から行われているようです。

企業や学生がいろいろな形の筋交をつくり耐震性や経済性を競うというもので、発表者である滋賀職業能力開発短期大学校のチームが大会3連覇を果たしそこに至る試行錯誤や先輩から継承した思いや技術をこちらも熱く語ってくれました。

いろいろなところでいろいろな人達がいろいろな方法で災害による被害を減らすべく努力している、そんな熱い思いを感じさせてくれる一日でした。



（記・青年委員会 徳本 豊）

青年委員会 三重県・奈良県合同見学会 ～はならあと2014 郡山城下町～

近年、継続事業として企画させて頂いている「三重県・奈良県建築士会合同見学会」が、2014年11月9日（日）に行われました。今年は我々が三重県さんをご招待させていただく番です。

近鉄郡山駅に集合致しますと、あいにくの曇天にも関わらず、互いに久しぶりの再会に早速の笑顔、会話が弾み、幸先の良いスタートとなりました。

まずは郡山城跡に向う道中の、古い町並み散策の途中、「菊屋」さんという創業400余年、太閤豊臣秀吉公ゆかりの和菓子屋さんに立ち寄り、皆さん早々に手土産をぶら下げての移動となりました。



『菊屋』

郡山城跡内の、現在石積の石垣の見学では、「さかさ地蔵」「羅城門の礎石」「柳沢文庫」などの、ボランティアガイドさんの解説に、皆さん「へえー！」。我々奈良県のメンバーも、お恥ずかしいことに同じく「へえー！」の連発でした。



『柳沢文庫』

途中、菊まつりの開催会場にて記念集合写真をパシャリ。一応スタート時点では2班に分かれての行動予定でしたが、このころには和気あいあいの雰囲気もすでに高まり、ほぼ混合の移動となっております。

そして、今回の目玉企画の一つ、大和郡山といえば“金魚”！ということで、「こちくや」さんにて、金魚すくい大会が開催されました。

決して広いスペースとはいえない水槽を皆さんで囲み、本格的な選手権方式で勝ち抜き戦！

予選では笑い声が絶えなかったのに対して、決勝戦ではなかなかの本気モード。

見事、優勝者並びに準優勝者は三重県の方に！ 会場のこちくやさんから素敵な景品を頂きました。



今回、奈良県で開催されている「はならあと2014」のイベント会場のひとつが郡山城周辺であるため、イベント開催スタッフの方にご協力を頂き、日ごろは入館できない建築物「川本邸」の内部見学をさせて頂きました。

大正13年に建てられた木造3階建てで、現在の住宅よりも立上が高いのか、すごく迫力のあるたたずまいに思えました。

時代背景はもとより面格子の間隔や、部材の木柄など、三重県の方たちと意見交換ができ、お隣の県とはいえど、風土に合わせた違いがいろいろあるものだと、改めて感じる事が出来ました。



『川本邸』

見学会も終盤を迎え、散策した界隈にあるお店で懇親会が始まりました。

言うまでもなく、大変な盛り上がりで閉宴時間をオーバーしている事にも気づかず（気づかぬふり）談話は続きました。

今日新しく出会った人、久しぶりに再会した人、名残惜しい気持ちを抱きつつ、次回の再会を固く約束し、三重県への帰路につかれました。

来年度は、我々が三重県さんに訪問予定。早くも待ち遠しく思います。

（記・青年委員会 宇陀支部 桑原大輔）



青年委員会

平成26年度一級・二級・木造建築士試験合格者見学会 及び祝賀会のご報告

平成27年1月25日（日）に『平成26年度1、2級及び木造建築士合格者見学会及び祝賀会』を開催いたしました。

毎年、奈良県建築士会事業として行っております合格者祝賀会は、新たに建築士となられた方々を対象として行うことにより、まずは建築士会を知っていただき、人間関係を築いた上で、建築士会に入会・活動いただくことを主な主旨としております。

建築士会の雰囲気や組織活動を感じて頂きながら継続的に参加してみたいと思ってもらえるよう、今年も青年委員会が一丸となって「おもてなし」させていただきました。

会場は、東大寺・菊水楼という、奈良を代表する建築物と開催いたしました。

今年は、1、2級、木造建築士の合格者、14名の方々に参加いただきました。

お昼に東大寺南大門集合、冬晴れの天気となり、ゆっくりと奈良を散策し多くの仲間と見学することで、改めて奈良を感じていただき、その中で交流を深めていきました。

東大寺の見学では、東大寺様より、大仏殿の成り立ちや大仏についてのお話を聞かせていただきました。

今回も特別に登壇参拝（ハスの花びらの上に登っての参拝）させていただきましたので、大仏を間近で見ることができました。



東大寺参拝の後、徒歩移動し菊水楼にて、祝賀会を行いました。

祝賀会開催にあたり中尾副会長と本保女性委員長よりご祝辞をいただきました。

ご祝辞の中で、建築士会は仲間やつなかりを築く上で貴重な場となり得ること等お言葉をいただき、建築士会の意義について改めて認識させていただきました。

ランチ軽食をいただきながら、建築士会の説明、青年委員会活動をまとめたDVDの放映をし、また自己紹介をして交流を深めていきました。



その後、菊水楼様の建物、館内すべてを見学させていただきました。昨年春までは旅館として営業されてました菊水楼ですが、リノベーションされ現在はウエディング、レストランとなっています。

まず食事をしましたレストラン棟は、オープンキッチンとして開放感あふれる空間演出がしてありました。



続いて本館へ移動。もともと旅館でしたので土足まま廊下を歩くことに抵抗を感じながら客室を案内いただきました。どの部屋も同じ部屋はなく、床の間、天井などに特徴がありました。最上階3階からは奈良の景色が一望で、本館続きの大広間は和風チャペルとして改装されています。

木造3階建ての迫力に魅了されながら、菊水楼玄関前で記念撮影をして解散いたしました。



合格者の方から建築士会ならではの見学会や活動があることを感じていただけた、仲間とともに行うこと、身近でも団体であるから見せていただけること、リノベーション建築、空間づくりを感じることができた等、感想もいただきました。数名ですが早速入会もしていただきました。本年度も奈良ならではの見学地、祝賀会会場と致しましたが、今後は場所・内容等について変化のある、より良いものとし、参加者の増加・満足度の高い事業にしていきたいと思っております。

参加者数については、例年、合格者の1割程度となっているため、より多くの方々に参加いただき建築士会との接点を築けるよう、合格者の方々へのアプローチの方法、募集方法を検討したいと思っております。

本事業を継続することにより、引き続き我々と合格者の方々とを結ぶ架け橋としていきたいと考えております。

最後となりましたが、本事業を行うにあたり協力いただきましたみなさまありがとうございました。

合格者のみなさんおめでとうございます。これからは建築士会メンバーとして、楽しんでいきましょう。ありがとうございました。
（記・青年委員会 久保陽洋）





2014高校生の「建築甲子園」 ベスト8 教育・事業委員長特別賞受賞

奈良県立奈良朱雀高等学校「奈良秋篠 エコビレッジ」

(公社)日本建築士会連合会主催の2014高校生の「建築甲子園」大会は、県内予選を経て本大会の審査結果が発表されました。

奈良県立奈良朱雀高等学校建築工学科の松山義広監督と選手4名(楠田笙太君、倉本裕也君、中井大成君、森田良広君)の応募作品「奈良秋篠 エコビレッジ」がベスト8・教育事業委員長特別賞を受賞しました。

建築甲子園は今回で第5回となりますが、奈良県からの出場校の最高記録です。

この表彰のため洲上会長が1月23日(金)に奈良朱雀高等学校を訪問して、監督と選手に表彰状と副賞を贈呈しました。



2015/ 1/23

今回のテーマは「地域のくらし」とされており、自分たちの生まれ育った地域において新しいくらしのスタイルや新しい住まいを提案するものです。

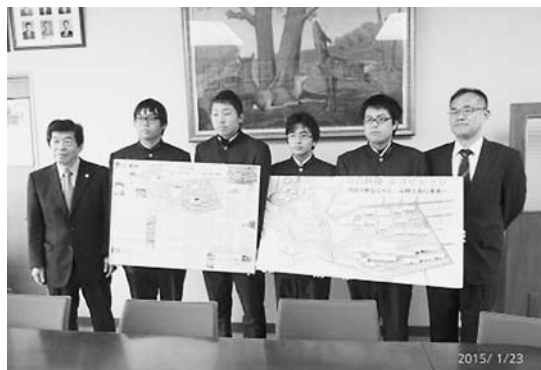
「奈良秋篠 エコビレッジ」は奈良朱雀高等学校の前身である旧奈良工業高等学校の跡地が未利用の状態に残っていることからここを対象地域として選定し、「持続可能なくらし 伝統と共に未来へ」というコンセプトで、地域の形態は環境に負担の少ない住居で自然エネルギーを使用するエコビレッジ、生活形態は共同で暮らすコウハウジング、建物は伝統的木造住宅としています。

この伝統に連なる時間系と集落構成を創出させたことが、教育・事業委員長特別賞につながりました。

広瀬高保連合会教育・事業委員長選評

皆さんは銀河鉄道の夜の作者として知られている宮沢賢治をご存じだろうか。若手県で農業を中心とした文化を創設するために一生をささげた人物である。37年という短い生涯のなかで、多くの文学作品のみならず農業関係事業にも足跡を残した。この作品を審査していて宮沢賢治が心に描いた理想郷イートハーブと重なるものを感じました。この作品は最近顕著になって来ている大気汚染、水質汚染、土壌汚染といった自然環境破壊に対して、使うもの、食べ

るものはできるだけ自分たちで生産する地産地消型の生活形態をとり、又敷地に建てられる施設は自然素材を材料とする伝統的木造工法で建設する等、環境に負荷のかからない持続可能なエコビレッジの提案をしている。その上少子高齢化、人口減少、地域経済の振興といった社会問題に対しても考慮しており、地域支援センター、コモンハウスといった建物がデイケア、老人介護、子育て支援に係る施設として提案されている。多くの配置図、平面図が描かれており力作と言えるが、施設の中で生き生きと生活する住民の姿が感じられる描写や表現があれば、もう一つ上の賞が授与されたであろう。



2015/ 1/23





お知らせ

Information

●おめでとうございます。

平成26年度一級建築士試験		合格者一覧（敬称省略）	
		35名（奈良県）	
藤川 道夫	中村 和晶	向坂真理子	佐田 彩
吉川 潤一	本田有紀子	赤尾 洋太	丸子 勇人
辻谷 勇輝	工藤 渉	松岡 由香	松永 真樹
鎌田 陽介	門脇 誠介	久保 雄俊	伴 史也
堀内 宏剛	中坂 佳樹	西村 賢	大塚由梨子
小橋 明奈	増井 小綾	梶原 将男	佐藤 敦子
米田 好孝	加藤 宏美	岸川 洋平	小西 豊
秋葉 俊二	中村 進也	北垣内健二	東 義敬
堀川 和哉	古川 太一	片岡 政規	
平成26年度二級建築士試験		72名（奈良県）	
平成26年度木造建築士試験		7名（奈良県）	

●平成26年度既存木造住宅耐震診断・改修技術者養成講習会 及び木造住宅耐震診断員登録講習会のご案内

開催日時 平成27年3月17日(火)

【第1部】 10時00分～15時00分

既存木造住宅耐震診断・改修技術者養成講習会

【第2部】 15時15分～16時10分

木造住宅耐震診断員登録講習会

開催場所 奈良県文化会館 小ホール(奈良市登大路町6-2)

主催 奈良県

※詳細は奈良県ホームページをご覧ください。

※詳しくは奈良県建築課までお問い合わせ下さい。

●平成27年度建築士試験日程の案内

1 平成27年一級建築士試験日程（予定）

- ①申込書配布 4月1日(水)～5月11日(月)
- ②申込受付 5月7日(木)～5月11日(月)
- ③「学科の試験」 7月26日(日)
- ④「学科」合格発表 9月8日(火)頃
- ⑤「設計製図の試験」 10月11日(日)
- ⑥「設計製図」合格発表 12月17日(木)頃

2 平成27年二級建築士試験日程（予定）

- ①申込書配布 3月9日(月)～4月13日(月)
- ②申込受付 4月9日(木)～4月13日(月)
- ③「学科の試験」 7月5日(日)
- ④「学科」合格発表 8月25日(火)頃
- ⑤「設計製図の試験」 9月13日(日)
- ⑥「設計製図」合格発表 12月3日(木)頃

3 平成26年木造建築士試験日程（予定）

- ①申込書配布 3月9日(月)～4月13日(月)
- ②申込受付 4月9日(木)～4月13日(月)
- ③「学科の試験」 7月26日(日)
- ④「学科」合格発表 9月8日(火)頃
- ⑤「設計製図の試験」 10月11日(日)
- ⑥「設計製図」合格発表 12月3日(木)頃

※申込受付については(一社)奈良県建築士会にて行う他に郵送やインターネットでも受付ができる場合があります。

※詳細は(公財)建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。

●平成27年度 通常総会の日程

1 日 時 平成27年5月19日(火)

午後5時半から

2 場 所 奈良県文化会館

3 議 事 平成26年度事業報告及び決算承認

平成27年度事業計画及び予算承認

事業報告会 午後6時過ぎから

懇親会 午後7時頃から

※正会員の皆様は、後日送付いたします通常総会の案内に付いている出欠表を提出いただきますようお願いいたします。なお、残念ながら欠席される場合には、必ず委任状も記載したうえで返送してください。

●平成27年度一級・二級・木造建築士定期講習についてのお知らせ

平成27年度の定期講習は、(一社)奈良県建築士事務所協会が受付を行います。

日程予定 【第1期】

講習会日時 平成27年6月3日(水)

場 所 奈良県産業会館（大和高田市）

定 員 100名

受 付 期 間 4月上旬～下旬

※平成27年度の第2期以降の定期講習は日程、開催場所等の詳細が決定次第、随時会報誌等でお知らせいたします。

※詳しくは(T E L)0742-34-8850までお問い合わせ下さい。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	〒	住 所（自宅）	勤 務 先
西 村 篤	高	639-0225	香芝市瓦口2153 ノーブル壺番館301	アイ・コンストラクション
村 上 雅 彦	高	639-0223	香芝市真美ヶ丘1-11-16	ムラカミサヒコー級建築士事務所
福 本 篤	桜	633-0054	桜井市阿部1021-9	歩建設株式会社
北 門 伸 也	奈	639-1007	大和郡山市南郡山町402-6	アーツ都市設計事務所
志 垣 智 子	生	630-0123	生駒市真弓南1-2-10	社会福祉法人敬友会高齢者住宅研究所
高 橋 達 夫	生	630-0251	生駒市谷田町1263-3	株式会社竹中工務店

編集後記

最近は何もない更地に新規物件を建てるよりも、既存の建物が建っている敷地に増築する物件が増えています。ところが、既存の建物が完了検査を受けているとは限らず、場合によっては図面すらない場合も珍しくありません。この場合、既存建物を調査し、建築基準法に適合していることを証明する手続きをして、場合によっては改修しないと、新規物件にかかれません。

施主様にしてみれば、欲しいのは建物であって書類ではありません。計画建物の図面や申請書類に時間と費用がかかることは理解していただけても、既存の建物の処理にそれと大差ない時間と費用がかかり、それが終

わるまで計画建物の建築が一步も進まないのを納得していただくのは困難です。

別棟や構造的に切り離す場合は、既存の部分は問わないか、せめて完了検査までに手続きを終えれば良いようにしてくれないかと思しつつ、既存建物の適合の処理に追われる日々を送っている今日この頃です。

(記・大倉克之)

Calendar

2015年3月

- 1(日) 奈良の森と木と家のフェスタ(橿原イオンモール)
富雄地域歴史的建造物調査報告会(奈良市富雄南公民館)
- 3(火) 大人の工場見学会2015
- 9(月) 二級・木造建築士試験申込書配布
4/14まで
- 13(金) 正副会長会議
- 14(土) 近畿建築士会協議会青年部会 京都会議
- 16(月) 二級・木造建築士試験申込郵送受付
3/30まで
- 19(木) 理事会
- 21(土) 女性委員会見学会
- 23(月) 二級・木造建築士試験申込インターネット受付 3/30まで
- 25(水) 住宅相談会(奈良県建築士会館)

Calendar

2015年4月

- 1(水) 一級建築士試験申込書配布
5/11まで
- 6(月) 一級建築士試験申込郵送受付
4/20まで
- 9(木) 二級・木造建築士試験申込対面受付
4/13まで
- 10(金) 一級建築士試験申込インターネット受付
4/20まで
- 17(金) 正副会長会議
- 22(水) 住宅相談会(奈良県建築士会館)
- 23(木) 理事会

士 會 奈 良 通巻600号

平成27年3月1日(発行隔月1回1日発行)

発 行 所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 瀧上 徳光

編 集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印 刷 所 株式会社 明新社

重要なのは「今」の合格実績! 合格者数No.1の総合資格学院!!

平成26年 1級建築士 設計製図試験

奈良県の合格者の
7割以上は、
当学院の現役受講生でした。

奈良県
合格者占有率
74.3%

奈良県合格者 35名中、当学院現役受講生 26名

奈良県

合格者占有率
ストレート合格者占有率

No.1

奈良県ストレート合格者の
およそ8割は
当学院現役受講生でした!

奈良県ストレート
合格者占有率
77.8%

奈良県ストレート合格者18名中、当学院現役受講生14名

1級建築士を
1年で取得するなら
総合資格学院

平成26年学科+製図合格

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。
※学科・製図ストレート合格者とは、平成26年度1級建築士学科試験に合格し、平成26年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※都道府県合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。平成26年12月18日現在

法定講習 一級・二級 建築士定期講習/管理建築士講習
第一種電気工事士定期講習/監理技術者講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習

法定講習サイト 検索

開講講座 1級・2級 建築士/1級・2級 建築施工管理技士/1級・2級 土木施工管理技士
構造設計1級建築士/宅地建物取引士/インテリアコーディネーター



総合資格学院

奈良校

TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

<http://www.shikaku.co.jp>

総合資格

検索

Facebook 「総合資格 fb」で検索!

学院長 岸 隆司